

産婦人科

糖尿病女性の プレコンセプション・ケア（妊娠前ケア）外来

産婦人科部長 安日 一郎

プレコンセプション・ケアをご存知でしょうか？

今回は、当科のプレコンセプション・ケア外来について、ご紹介いたします。

昨今、プレコンセプション・ケアという言葉が産婦人科領域に関わる医療者の中に浸透しつつあります。コンセプション（conception、受胎）の前のケア、すなわち妊娠前ケアという意味です。妊娠が成立したときに母体と胎児の最適な健康環境を提供するという概念で、胎児の二分脊椎の予防を目的とした妊娠前の葉酸摂取の推奨は、妊娠前ケアの代表的な一例です。葉酸摂取は、日本でもある程度普及しつつあり、ドラッグストアには葉酸サプリが並んでいます。この奇形予防のための葉酸摂取はもとよりですが、今日提唱されている妊娠前ケアは、さらに妊娠全期間にわたる母体・胎児の様々な周産期合併症を予防するための妊娠前からのアプローチ、という概念に発展しています。

糖尿病女性は妊娠前ケアを最も必要とするターゲット

妊娠前ケアは、もともとは糖尿病女性の児の奇形発症予防を目的とした妊娠前の至適血糖管理として、葉酸摂取の推奨以前から、糖尿病女性を対象に提唱されていた概念です。糖尿病合併妊娠がその原因となることは1950年代から多くの論文報告があり、今日、母体の受胎期の高血糖がその原因となることは明白なエビデンスとして確立されています。尾部退行症候群という特殊な奇形が糖尿病合併妊娠に特徴的な奇形であることが知られていますが、糖尿病合併妊娠では、こうした特殊な奇形だけではなく、一般的に認められるあらゆる大奇形（心奇形、中枢神経奇形、消化管奇形など）の発症と関連しています。内科合併症妊娠に認められる胎児奇形は、その疾患そのものよりも疾患の治療に必要な薬剤による催奇形性がほとんどですが、疾患それ自体が奇形の原因となるという点で、糖尿病は特異的です。そのことは一方、疾患のコントロールによって奇形発症を予防できるという点でも特徴的であり、奇形の予防のためには、妊娠前からの厳重な血糖コントロールが必要となります。糖尿病女性が妊娠前ケアの代表的なターゲットである所以です。

長崎医療センターの糖尿病女性の妊娠前ケア（産婦人科と糖尿病内科の連携）

2015年、成育医療センターが日本で最初の妊娠前ケア外来を開設したことが、同センターのホームページで謳われていますが、長崎医療センター産婦人科では、それより先の2007年頃から糖尿病女性を対象とした妊娠前ケアを開始し、2013年には本格的な取り組みを始めました（図1）。当初は、妊娠を前提とした糖尿病女性を対象に、血糖コントロール状況について糖尿病内科医と連携をとりながら、避妊と至適妊娠のタイミングについてのカウンセリングが中心でした。現在行っている妊娠前ケアは、多様な内容に発展しています（図2）。

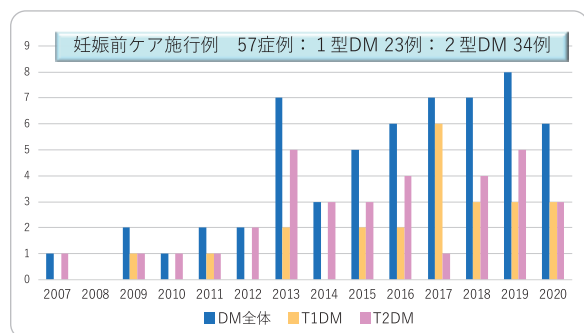


図1 糖尿病女性の妊娠前ケア開始症例の推移

血糖管理	奇形発症予防 HbA1c<6.5% (低血糖を起こさない範囲で)	奇形予防
葉酸投与	奇形発症予防	望まれない妊娠の回避
避妊指導	望まれない妊娠の回避 妊娠許容条件までの妊娠の回避	望まれない妊娠の回避
性教育	正しい性知識	合併症管理
合併症管理	網膜症・腎症のチェック	至適体重管理
投薬内容の検討	催奇形性薬剤の回避	女性のヘルスケア
栄養指導	体重管理	
妊娠前検査	感染症チェック (風疹・梅毒・HB抗体) 子宮頸がん検診	

図2 糖尿病女性の妊娠前ケア

また、当初は妊娠を希望する糖尿病女性を対象にしていたが、最近は対象をさらに拡大し、パートナーのいない未婚糖尿病女性も含めた教育やカウンセリングを行なっています。こうした取り組みには、産婦人科医、糖尿病内科医、栄養士、糖尿病認定看護師、助産師等の多職種の連携が必須で、チーム医療としての取り組みを発展させています。多職種の「妊娠と糖尿病合同カンファレンス」を月1回開催し、妊娠中の糖尿病合併妊娠症例とともに、妊娠前ケア外来の情報を共有しながら糖尿病女性の支援を行なっています(図3)。血糖コントロールとともに重要な点は、妊娠前の葉酸摂取の推奨、糖尿病合併症のチェック(眼底検査、腎機能など)、体重管理、妊娠を前提とした薬剤の変更(血糖降下薬からインスリンへの変更、降圧剤の変更)など、妊娠のリスクを軽減するための準備です。

- ・妊娠前ケアの対象者
 - ・婚姻状況、パートナーの有無 (steady partnership)、性交歴
 - ・血糖コントロール状況
 - ・妊娠を前提とした薬剤の検討
- ・妊娠中の患者
 - ・血糖コントロール状況
 - ・産科的評価：胎児発育、合併症
 - ・計画分娩
- ・分娩後の患者
 - ・授乳
 - ・育児

図3 産婦人科・糖尿病内科合同カンファレンス

望まれない妊娠の回避：女性のヘルスケアの一環

妊娠はいつも望まれてやってくるわけではありません。日本では1990年代前半までは、妊娠したものの受胎期の血糖コントロールが不良であったため、奇形発症のリスクを恐れて妊娠中絶の選択を余儀なくされるケースが決して稀ではありませんでした。糖尿病と妊娠に関する啓蒙が進む中、そうした悲劇は徐々に減ってはきたものの、今日でも、妊娠を前提とした糖尿病の管理は十分ではありません。特に、未婚の糖尿病女性を対象にした正しい避妊などの性教育を含めて、糖尿病と妊娠に関する情報提供はほとんど行われていません。家族に相談ができないなど、未婚女性にとって望まれない妊娠のために受けるストレスは甚大です。私たちは、こうした未婚糖尿病女性の支援も重要な妊娠前ケアの課題として取り組んでいます。これから妊娠年齢となる糖尿病女性を対象に、未婚、既婚にかかわらず、望まれない妊娠の回避を含めた妊娠前からの教育と支援を目指しています。ぜひ当科の産婦人科外来にご紹介いただければ幸いです。